

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 777 号 令和8年2月

目次

○時重初熊先生の掃苔供養を行いました（徳山支部 木原一郎先生）	1
○山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会令和7年度第2回会合報告（白銀政利監事）	2
○令和7年度山口支部研修会開催報告（山口支部 宮本明奈先生）	3
○令和7年度狂犬病予防業務ブロック技術研修会（中国・四国地区）参加報告（長北支部 米津 悟先生）	3
○高齢になって我が身に起こった体調の変化（山口支部 中間實徳先生）	4
○リレー随筆（岩柳支部 壹岐真帆先生）	5
○令和7年度毒物劇物危害防止標語入選作品	6
○お知らせ 令和7年度小動物学術講習会（中国地区）の開催について	7
○お知らせ 山口県獣医師会館の住居表示変更について	7
○事務局だより	7
○狂犬病予防啓発ポスター	8
○「猫ひっかき病」検査キット開発に支援を！ ポスター	9

時重初熊先生の掃苔供養を行いました

徳山支部 木 原 一 郎

（周南市徳山動物園）

去る令和7年11月30日、県獣医師会の中村会長、白永副会長、酒井常務理事、並びに徳山支部の橋本支部長他十数名が、周南市戸田にある時重初熊先生の墓前に集い、掃苔供養を執り行いました。

時重先生は、安政6年、戸田村（現周南市）昇仙峰の麓にお生まれになり、小学校・中学校、旧制学校で学ばれた後、東京帝国大学に進学し獣医学を修められました。獣医学研究のため、当時の先進国であったドイツに留学され、細菌学・伝染病学を本格的に修得されました。帰国後は「仮性皮疽病の研究」を発表して注目を集めたほか、ヒムシ病、結核病、ダニ熱など家畜の重要伝染病や原因不明の疾病を幅広く研究され、予防液・血清診断薬の製造と研究指導を通じて多くの実用的成果を挙げられました。その業績は海外でも高く評価され、日本畜産界の恩人として、また日本獣医学会の発展に大きく貢献されました。

近年の酷暑を避け、例年より遅い日程での実施となりましたが、当日は天候にも恵まれ、ひんやりとした作業日和となりました。墓地までの急斜面には多くのドングリが落ちており、踏んで転んでしまわないように、足元に注意しながらの登坂となりました。また、社会問題となっているツキノワグマが出てきたりしないかと警戒しながらの作業となりました。

2年ぶりの作業となったため、周囲にはカシやシダなどがかなり繁茂しておりましたので、参加されていた先生方は、涼しい気温の中、息をあげながら手際よく作業に取り組まれていました。墓の周辺をきれいに

刈り整え、墓石を磨き上げた後、花を供え、線香を焚き、参加者一同が整列して墓前に手を合わせました。多少のハプニングもありましたが、和やかに汗を流しながら、先人の功績に感謝する時間となり、清々しい朝の作業だったと感じたところです。

次回はまた2年後となりますが、若い先生方にも参加していただけるよう、広く、また個別にも参加のご案内をしていきたいと感じた一日となりました。



山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会 令和7年度第2回会合 報告

監 事 白 銀 政 利

令和7年11月10日に第2回会合が県庁において開催され、県獣医師会推薦検討委員として出席しましたので、その概要を報告します。

第1回会合は書面開催とされ、今回会合が実開催として初めての会合となったことから、協議に先立ち、座長の選出が行われました。（県環境保健センター 調恒明所長が座長に就任。）

1 令和7年度調査結果について

今年度は、ネコを対象とした重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の調査が、会員動物病院・県動物愛護センターの協力（検体採取）と、県環境保健センターでの検査（ウイルス遺伝子）で実施されました。その結果は、表1のとおりです。

今回の調査結果において、SFTSウイルス遺伝子を検出したネコ2匹の性別等の概要は表2のとおりです。

陽性となった2匹の飼育状況は、ともに屋内外を自由に移動できる環境での飼育であり、そのうちの1匹は数か月前にダニの寄生が確認されています。

なお、No.2の症例は、本会会報第771号（令和7年8月）に掲載の3例目と同一のネコでした。

検討委員の議論では、発症ネコやイヌの関係者による取扱いについて、多くの意見が出ました。発症動物からの感染リスクは無視できないものであり、獣医療従事者については、PPE（手袋・防護衣等）による感染防止対策が重要であることを記載する事務局案に異論はありませんでした。しかし、一般の飼主に対しての記述については、手袋等を装着して

発症動物に触れることを推奨すべきとの意見があり、一方、一般の飼主に対してそこまで踏み込めるのかとの異論もあったことから、結論には至りませんでした。事務局において、本日の議論を踏まえ、修正したものを各委員に呈示して、再度意見を調整する形となりました。

2 令和7年度の事業報告書(案)と啓発資料(案)について

今年度の調査結果を掲載した事業報告書(案)と啓発資料(案)が事務局から示され、委員間で意見が交わされました。その結果、啓発資料(案)の「注意を要する感染症（ネコ）」の頁で、室内飼育の重要性や過度な接触を避けることなどを加えることとなりました。「主な動物由来感染症」の項、「エキノコックス症」の「感染経路・感染状況」の欄に、本州（青森県）での発生にも触れるべきとの委員意見を踏まえ、修正が加えられることとなりました。

3 その他

第3回会合を翌年1～2月に開催する予定が示され、令和8年度事業計画(案)等を議論することが示されました。

ヒトのSFTSについては、死亡率が27%ともいわれる重篤な疾病であり、獣医療従事者の感染（死亡）も報告されていることから、県獣医師会として、山口大学との連携により実施しているSFTS検査の結果についても、引き続き本会HPにより情報提供を行っていくことが重要と感じました。

表1

動物種	検体採取施設	検体種別	検査数	陽性数※
ネコ	動物病院 (8施設)	口腔拭い液	72	2
		糞便又は肛門拭い液	72	1
	動物愛護 センター	口腔拭い液	1	0
		糞便又は肛門拭い液	1	0

※ SFTS ウイルス遺伝子を検出

表2

No.	性別	年齢	飼養 状況	発病 年月日	症状	検体 採取 年月日	結果判明	転帰
1	オス	9歳	屋内外 ダニ(+) ※数か月前	4/30	元気食欲消失、 発熱、血小板減少、 嘔吐	5/8	5/14	死亡 (5/13)
2	オス	5歳	屋内外 ダニ(-)	5/26	元気食欲消失、 発熱、血小板減少、 嘔吐、下痢	5/29	6/4	死亡 (6/1)

令和7年度 山口支部研修会 開催報告

山口支部 宮 本 明 奈

(山口県動物愛護センター)

令和7年12月14日(日)、山口市の防長苑において、令和7年度山口支部研修会が開催されました。

本年度は、山口大学大学院技術経営研究科教授の福代和宏先生をお招きし、「進む地球温暖化：住環境や生物界への影響と対策」という演題で、地球温暖化の現状と対策についてご講演いただきました。参加者は23名で、質疑応答も活発に行われるなど、非常に充実した研修会となりました。

地球温暖化は、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の感染拡大など、私たちにとって非常に身近な問題です。気候変動に伴い、病原体を媒介するベクターの分布域が北方へ拡大することが、次のパンデミック発生を促す要因の一つとなる可能性が示されました。

また、化石燃料を輸入に依存している日本において、私たちが取り組むべき「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」の重要性についても解説がありました。日常生活

の中で、地球にやさしい取り組みを意識していきたいと強く感じました。貴重なご講演をいただいた福代先生に、改めて感謝申し上げます。

《省エネ》

省エネ家電への置き換え、省エネ住宅（断熱、地中熱）、省エネ行動、食品ロス低減

《創エネ》

太陽光発電など再生可能エネルギーの活用

《蓄エネ》

電気自動車を「動くバッテリー」として活用する、定置型蓄電池の導入

研修会終了後には懇親会が催され、コーヒーとケーキを囲みながら和やかなひとときを過ごしました。



講演される福代和弘先生



研修会会場の様子

令和7年度狂犬病予防業務ブロック技術研修会（中国・四国ブロック）参加報告

長北支部 米 津 悟

(長門健康福祉センター)

令和7年12月17日から19日にかけて、東京の国立健康危機管理研究機構 国立感染研究所で研修を受けましたので、その報告をさせていただきます。

参加者は中四国地方の自治体の職員、動物検疫所の職員、厚生労働省の職員など衛生獣医狂犬病業務関係者16名で3日間にかけて狂犬病について学習しました。

内容につきましては、初日に、狂犬病の発症機序、世界での発生状況、日本での狂犬病への取り組み・対応、求められるべき獣医師としての役割などに関する講義や実際の成田空港における検疫業務についての講義を受けました。その後、犬の解剖を行う際にBSL2の実験施設に立ち入るために必要な講習を聞き、個人用防護具（PPE）の装着の仕方や立ち入り手順、緊急時対応など基本的な教育訓練を学ぶ「バイオセーフティ講習」を受けました。また二日目に行われる解剖実習

を想定して、頭蓋骨模型を用いた脳の取り出しを練習しました。

二日目には解剖実習があり、解剖室に移動し実際にビーグルを解剖し脳を取り出しました。取り出した脳から、海馬・小脳・延髄・橋・視床を切り出し、無蛍光スライドグラス（3穴スライドグラス）に組織をスタンプし、標本を作る練習を行いました。その後、狂犬病の診断に用いられている直接蛍光抗体法による抗原検出方法やRT-PCR法による遺伝子検出方法について説明を受けました。蛍光顕微鏡を用いた実習では、実際にスライドスタンプした標本を染色し、陽性と陰性の見え方の違いや非特異反応についての染色像を確認しました。

三日目には、総まとめとして、様々な狂犬病疑い状況を想定したお題が与えられ、それぞれについて各自

治体の取るべき対応をこれまでの研修で学んだことを生かしながら、グループで協議し発表しました。

今回の研修をとおして私は、清浄国である日本において、狂犬病はそこまで馴染みがあるわけではなく、自分自身も業務で密に関わることは少なく、また狂犬病に関する研修もこれまで経験したことがなかったため、実際に狂犬病が発生した場合の対応や検査方法など、自分が自治体の狂犬病予防担当員として、どういう立場で、実際に何をすべきなのか、深く理解していなかったことを認識しました。それと同時に少なくとも自分が求められている衛生獣医としての役割、狂犬病発生時の県や中核市の保健所の対応・国や他の機関との連携などを理解することが出来ました。

研修には自治体の職員の他、動物検疫所や厚生労働省の職員が参加しており、各方面で様々な業務を行っている方達と交流する機会がありました。講義や実習をとおして、多くの知識や技術を得ることが出来たことは言うまでもないですが、普段関わることが少ない方達と情報交換できたことも非常に有意義なものでした。



頭蓋骨模型を用いた実習

高齢になって我が身に起こった体調の変化

山口支部 中間 實 徳

(山口大学名誉教授・東亜大学名誉教授)

皆様、お健やかに新年をお迎えの事と拝察致します。私はこの3月で90歳となります。一昨年88歳となるのを機に東亜大学医療学部の大学院と獣医看護学コースの教授を辞めさせて戴きました。これまで大した病気もせずに、大阪公立大学、山口大学、東亜大学と50年間務めることが出来て感謝の気持ちで一杯です。

大江正人氏の今年の年賀状に県獣会報に寄稿をお願いしますとの依頼がありましたので、標記のようなタイトルで書いてみました。私は最近体調に異変が生じ専門医で受診し対応した結果を報告致します。

- 1) 2008年9月に不整脈がみられ、専門医で受診の結果、発作性上室性頻拍だが重症ではないとの事でした。済生会山口病院に入院しワソラン錠を内服し1週間で退院しました。この薬は2016年10月まで継続しました。
- 2) 2024年散歩中に転倒。3月に近くの榎野川に桜を家内とみて歩き、4km程歩いた家の近くで、私は転倒し起き上がれなくなりました。近くを車で通りがかった男性の人が、私を抱き上げ車に乗せて家まで送って戴きました。私は脱水症状だと思い水を飲んだら、平常に戻りました。このことは以前にも脱水症で医者に駆け込み診断されたことがありましたので、今回も同じような症状のためそのように判断しました。外出する時は必ずペットボトルに水を用意していかなければならないと肝に銘じ、今はそれを実行しています。
- 3) 2024年5月、両足の浮腫が生じ、済生会山口病院で診断の結果、心房粗動という診断を受け、血栓防止薬（血液サラサラの薬：エリキュース錠）と心機能改善薬（カルベジロール錠）の内服を行い現在

も継続中です。両足の浮腫などは心臓機能が低下した場合にも生じますので、血栓による脳梗塞や心筋梗塞の防止のためにも、血栓防止薬は必要とされています。

- 4) 2025年8月、夜半に左足第一趾第一関節の腫大、熱感、疼痛が生じ、整形外科医で受診の結果、痛風と診断されました。尿酸値が少し高め（6.0mg：基準値は3.6-7.0mg/dl）とのことで、これを減らす薬：フェブキソスタット錠の内服を続けています。内服を始めて1週間ほどで症状は消失しました。
- 5) 耳が遠くなりました：対面での話の時は補聴器なしでも不自由は感じません。大きな会場での話声は聴けますが、話の内容が良く分からないことがあります。デンマークのワイデックス製のものを使っていますが、完全ではありません。
- 6) 夜間頻尿のこと。2024年7月中旬頃より、夜間頻尿で夜5回程起きてトイレに行くようになりました。これまで、色々な漢方薬などを試みていますが、効果はありません。どなたか良い方法を御存知でしたら教えてください。

現在、身体的には変状はなく、内服薬を続けて元気に過ごしています。要は体調に変化がみられたら早めに専門医で受診し、対応することが大切と思っています。

私は、毎朝6時25分から始まるNHK教育テレビでのラジオ体操、趣味の尺八演奏、スクエアダンス等をグループで毎週踊っています。人生100年時代と言われていますが、自分の事は自分でできる事、車の安全運転に心掛け、正しい生活習慣を守っていききたいと思っています。

(E-mail:nakama@c-able.ne.jp)

リレー随筆

岩柳支部 壹岐真帆
(東部地区家畜診療所)

寒い日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回、職場の先輩である市村先生からバトンを引き継ぎました、NOSAI山口東部地区家畜診療所の壹岐です。市村先生、このたびはお子さんのご誕生、誠におめでとうございます❀赤ちゃんの健やかなご成長と、ご家族皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

私は宮崎県出身で、山口大学を卒業後、NOSAI山口に就職しました。令和6年4月から働き始めて約2年が経ちます。国家試験に向けて勉強していた日々は、今となっては遠い過去のように感じられ、月日の流れの早さを実感しています。その一方で、日々の診療を通して少しずつではありますが知識や技術を身に付け、農家さんから信頼される大動物獣医師になりたいという思いを胸に、毎日奮闘しています。幸いにも、明るく元気な職場の先生方や農家さんに恵まれ、かわいい牛たちにも囲まれながら仕事できています。やりたかった仕事にまっすぐ向き合える環境で働けていることに、日々感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、ここで少し私の趣味について書かせていただこうと思います。突然ですが、皆さんの趣味は何ですか。人それぞれ様々だと思いますが、私の趣味は音楽です。好きなアーティストの曲を聴いたり、歌詞の意味を考えたり、ライブに足を運んだりすることが好きで、たまに家にある電子ピアノを弾くこともあります。ちなみに好きなアーティストは櫻坂46とsumikaで、1年に少なくとも5回はライブに行っています。福岡や広島、時には東京まで足を運ぶこともあります。様々なコンテンツで溢れ、簡単に情報を得られる時代ではありますが、現地で体感するライブは、アーティストとその空間に集まった人たちが一体となって作り上げる、唯一無二のものだと感じています。勉強や仕事でうまくいかない時でも、ライブ会場で生で聴く楽曲が心に響き、また明日から頑張ろうと前向きな気持ちになります。本当は好きな歌詞も紹介したいところですが、著作権の関係で載せられないのが残念です。写真は、今年の春から夏にかけてライブに行った際のものです。これからも、仕事も趣味も全力で楽しみながら、一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。



今回のリレー随筆は、大学時代の同期で友人の、シラナガ動物病院 有吉陽向先生にバトンタッチします。

令和7年度毒物劇物危害防止標語入選作品

最優秀賞

点検は一步先読み確実に 確認は一步退き見直して 正しく扱う毒劇物

東ソー株式会社 南陽事業所 松浦 仁一

優秀賞

怖いのは 慣れと過信と確認不足 意識を高め 安全作業

東ソー株式会社 南陽事業所 仲子 雅博

見たはず したはず やったはず 不安な作業は再確認

三井化学株式会社 徳山分工場 竹内 隆

佳作

【ど】どんな危険も【く】くまなく潰し【げ】現場に潜む
【き】危険を摘み取る【ぶ】文化を【つ】つくろう！

東ソー株式会社 南陽事業所 縄田 敏

保護具着用から始める安全意識。無事故で帰宅、家族の笑顔

株式会社トクヤマ 徳山製造所 原田 和也

小さな気づき 見逃さぬ君が 職場の誇り

日本ゼオン株式会社 徳山工場 古賀 大丸

お知らせ

令和7年度小動物学術講習会（中国地区）の開催について

(公社)鳥取県獣医師会から次のとおり開催案内がありました。

参加を希望される会員は、2月24日(火)までに、本会事務局に連絡してください。

- 開催日時：令和8年3月15日（日）14:00～16:00
- 開催場所：米子コンベンションセンター 3F 第2会議室（米子市末広町）
- 演 題：「クレーム相談～見えるクレームの傾向と対策～」
- 講 師：弁護士法人フラクタル法律事務所 弁護士 田村 勇人 先生
- 参 加 費：中国地区各県獣医師会会員は、参加費無料
- そ の 他：講習会終了後に希望者による懇親会が予定されています。（会費6千円）

山口県獣医師会館の住居表示変更について

住居表示に関する法律の規定に基づき、令和8年2月14日より、下記のとおり獣医師会館の住居表示が変更となりますのでお知らせします。

■変更内容

実施前：〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080番地3

実施後：〒754-0073 山口県山口市小郡本町2丁目12番8号

※電話番号・FAX番号に変更はありません。

■変更期日

令和8年2月14日（土）

今後の主な行事(予定)

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|---------------------|
| 2月8日 | ・第2回小動物講習会（YMfg維新セミナーパーク） | 2月19日 | ・第2回支部長会議（県獣会館） |
| 2月9日 | ・山口県家畜保健衛生業績発表会（県教育会館） | 3月12日 | ・第4回理事会（県獣会館） |
| 2月12日 | ・山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会（県庁） | 3月13日 | ・獣医学教育改革推進協議会（山口大学） |
| 2月16日 | ・日本獣医師連盟役員会・総会（東京都） | 3月15日 | ・中国地区小動物講習会（米子市） |

事務局だより

- 1月8日 ・県獣会館建物点検
- 1月22日 ・山口県選挙管理委員会協議（県庁）
- 1月22日 ・山口県畜産振興協会講習会（維新ホール）
- 1月26日 ・日本獣医師連盟役員会(オンライン)

- 1月27日 ・会報編集委員会（県獣会館）
- 8日 ・事業推進会議

次回編集委員会 2月24日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第777号 令和8年2月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡本町2丁目12番8号)
 電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554
 e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp
 http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊 川 剛
 発行責任者 中 村 滋
 印刷 コロニー印刷

狂犬病は、犬だけでなく、**人にもうつる**病気です。
発症した場合、**ほぼ100パーセント死に至ります**。
毎年愛犬に予防注射を受けさせましょう！

犬の登録は生涯1回 狂犬病の予防注射は**毎年1回**



狂犬病予防注射はお済みですか



狂犬病予防注射済
2026年度

山口県市町

※首輪に装着しましょう

犬鑑札

山口県市町

アニメーション動画

明治アニマルヘルス(株) 提供



作画協力：周南公立大学知財開発コース
(公社) 山口県獣医師会 (公社) 山口県動物保護管理協会 市町 山口県



クラウドファンディングに
山口大学が挑戦します！



猫と安心して暮らしたい！

「猫ひっかき病」 検査キット開発に支援を！

寄附金控除型クラウドファンディング

目標金額 **400万円** 2026年**1月19日**(月) 9時 ~ **3月18日**(水) 23時

「猫ひっかき病」検査キットの開発で 猫と人の未来を守ります！

「猫ひっかき病」をご存じですか？

猫から感染し、原因不明の不調を引き起こす「猫ひっかき病」。現在、診断までに時間がかかり、苦しんでいる患者さんが多くいらっしゃいます。

私たちの研究室は、国内の医療機関からの検査依頼を広く受け入れている、この病気の血清検査ができる主要な機関です。

「診断待ちの不安をゼロにしたい」

この想いから、地域の病院でも**迅速・正確に診断できる「検査キット」**の開発プロジェクトを立ち上げました。猫と安心して暮らせる未来を！皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

「猫ひっかき病」検査キット 開発プロジェクトチーム

リーダー 病態検査学講座 特命教授／常岡 英弘

微生物学講座 教授／坂本 啓

眼科学講座 教授

細胞デザイン医科学研究所 小串拠点長／木村 和博

共同獣医学部長・共同獣医学部病態制御学講座

教授／度会 雅久

医学部保健学科長・病態検査学講座 教授／山本 健

基礎検査学講座 教授／西川 潤

病態検査学講座 講師／大津山 賢一郎



ご支援は
こちらから！



現在のご支援状況も
ご覧いただけます！

インターネット上での手続きが難しい場合は、
山口大学医学部予算管理係まで直接ご連絡ください。
EMAIL: me212@yamaguchi-u.ac.jp TEL: 0836-85-3253

山口大学 猫ひっかき病 レディーフォー



READYFOR



YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学

※本プロジェクトはAll-or-Nothing方式のため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄附は返金いたします。
※本プロジェクトへのご寄附につきましては、税控除の対象となります。詳細についてはプロジェクトページをご覧ください。